

総務常任委員会

幸手市職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例（議案第2号）

問 扶養手当の見直しについて、令和8年度以降廃止ということで、配偶者は扶養しないという方針なのか伺う。

答 こちらの改正については、人事院勧告に基づいて行うものである。人事院では民間事業所等の調査をして、配偶者に対して扶養手当を出すところが少なくなっているの、「配偶者に係る扶養手当については廃止する。」という方向で人事院勧告がされ、それに準じて配偶者の手当については2年間で段階的に廃止をしていくというものである。

問 通勤手当が5万5千円から15万5千円と、かなり大幅に上限が引き上げられる、市職員で対象者はいるのか伺う。

答 ここまで大きく支給する職員は現在はいない。民間では15万5千円までを、全額支給もし

くは非課税の通勤手当として、支給しているところが多くあり、人事院勧告にて示されたので、市でも、それに基づいて改正するものである。

令和6年度幸手市一般会計補正予算（第8号）
（議案第13号）

問 ふるさと納税事業業務委託料500万円の増額は、返礼品が増えたことによる影響とみてよいか伺う。

答 ふるさと納税の返礼品の数は、令和6年度は令和5年度に比べて増えた。その関係もあり、ふるさと納税の寄附金額も増えている、今回は歳入で1千万円を追加補正して、その関係でそれに係る委託料で、今回500万円で計上している。

令和7年度幸手市一般会計予算（議案第19号）

問 シティプロモーション映画

を製作することで得られる効果とメリットについて伺う。

答 この映画は多くの市民の方が携わること、市民の方のシビックプライドや、市民の誇りを持つていただけると考える。また、映画を公開することにより、幸手市の魅力を広く周知することができ、定住促進、関係人口の増加というのが見込めるものと予想する。この映画は、市民の方に関わっていただき、ワークショップを行うが、そこで幸手市の良さが様々な方からいろいろな意見が出てくると考えるが、そのようなことで見えなかった地域の魅力の掘り起こしができる。自分の言ったことが映画になるということで、市民としての誇りになる。市職員は、幸手市の、まちづくりを行うっており、市が有名になることを望んでいる。市が皆さんに知っていただいて、いろいろなところで効果が見えてくると、市職員としても仕事に対してのモチベーションも上がる。その辺については効果があると予想される。ただ、現在は担当課で行っているので、全職員にも説明をして、盛り上げていきたいと考えている。

問 映画の製作にあたって、県の補助金のふるさと創造資金の活用をするとのことだが、交付要綱には、住宅整備や高齢者の福祉、少子化などの多岐にわたる事業例があるなかで、どのような経緯で、シティプロモーション映画に決定したのか伺う。

答 本市の中ではいろいろな課題があると認識している。その中で、各所管において、よりよい幸手市をつくるためにいろいろな事業を考えて提案をしている。その中で、実施計画の査定において、よりよい幸手市をつくるためには何がよいのかというところまで上がってきたものが映画製作であった。その映画製作について、ふるさと創造資金の条件に合致したので、事前協議を上げさせていただいた。映画製作については、市の人口減少の課題に対応するものと考え、総合振興計画にも重点施策で上げられているので、効果があるものと認識している。



文教厚生常任委員会

幸手市非常勤消防団員に係る退職報償金の支給に関する条例の一部を改正する条例
(議案第5号)

問 勤務年数35年以上の退職報償金の単価が上がったのか。

答 35年以上の勤務年数枠とそれに伴う退職報償金の額が新たに設定されたものであり、単価が上がったわけではない。

令和6年度幸手市一般会計補正予算(第8号)
(議案第13号)

問 運転免許証自主返納者支援事業委託料について、利便性の面から対象となるタクシー会社を増やす計画はあるか。

答 現在対象となつているタクシー会社は市内2業者で、共和タクシーと幸手タクシーになる。現時点ではこの2業者のほか、追加する計画はないが、今後の状況等は注視していく。

令和7年度幸手市一般会計予算
(議案第19号)

問 空家等基本計画策定業務委託料の内容について。

答 令和6年度と7年度の2か年をかけて策定業務を進めており、令和6年度は空家実態調査やアンケート等を実施。令和7年については収集したデータを踏まえ空家対策計画の策定をしていく。また空家対策協議会を年4回開催し、運営支援等を行なつていく予定である。

問 定期予防接種等業務委託料の内容について。

答 小児の関係では、ロタウイルスが878万4720円、ヒブが684万7320円、小児用肺炎球菌が995万6720円、B型肝炎が390万4065円、5種混合が1465万1945円、BCGが244万7390円、日本脳炎が442万350円、麻疹・風疹混合ワクチンが582万1420円、水ぼうそうが284万310円。また高齢者に係る予算として4813万4340円計上している。带状疱疹については国の方

針通り65歳以上を対象としている。

問 防災行政無線整備工事および防災行政無線操作卓更新工事には、九都県市防災訓練も含めて予算計上されているか。

答 防災行政無線工事は今設置されている固定系無線のバッテリー交換と屋外子局装置の交換費用が主なもの。また操作卓更新工事は第二庁舎2階にある操作卓の更新費用であり、九都県市防災訓練に係る費用は別途計上している。

問 教育費のタブレット端末管理機能構築業務委託料の内容は。

答 タブレット端末が令和8年度で更新となる。それに併せて教職員の校務用端末は、昨年の9月末日をもつて契約が満了となったが、これを1年間継続使用する。校務用端末と子どもたちの端末は、これまでマイクrosoftが提供しているウインドウズOSを使用していたが、更新に当たりグーグルが提供しているクロームOSを使用する。

建設経済常任委員会

令和6年度幸手市一般会計補正予算(第8号)
(議案第13号)

問 幸手領・権現堂2期地区長寿命化対策事業負担金の、618万5千円減について伺う。

答 県営事業で、農業用のパイプラインの排水機場が10か所あり、その長寿命化工事となっている。こちらが当初より国庫補助金の割当てが少なかったため、減額となった次第である。

令和7年度幸手市一般会計予算
(議案第19号)

問 地域おこし協力隊活動業務委託料の委託内容というのはどのようなものが含まれているのか伺う。

答 地域おこし協力隊の報酬費、人件費である。今回、隊員が2名となるため、埼玉県ふるさと創造資金交付金要綱に基づき上限額は1人当たり1年で3

20万円であり、2名の場合は640万円となる。このため、640万円を計上した。

問 商工業近代化資金の関係ですが、この1千万円の預託金については、何件ぐらいの幾らぐらいの融資申請が出るのを想定して予算要求になったのか伺う。

答 各銀行で、それぞれ合わせて2億円までの貸付けが可能な金額となっている。近代化融資制度については、運転資金が1件当たり2千万円以内、設備については3千万円以内と限度額が決まっている。

令和7年度幸手市水道事業会計予算
(議案第24号)

問 漏水調査業務委託料の内容及び調査方法について伺う。

答 毎年定例でおこなっている漏水調査である。調査方法は面でおこなう調査と個別でおこなう調査の2種類である。今回の

漏水調査の場所は緑台1丁目、2丁目を予定している。調査方法については、音聴棒という道具を使用し、夜間に道路に鉄の棒を当てて耳で確認し、漏水がないかを調査する。また、メーターボックスからの漏水がないかも調査する。

令和7年度幸手市公共下水道事業会計予算
(議案第25号)

問 企業債の資本費平準化債という記載があるが、今年度と比べた際に、この項目がなかったが、どういったものか伺う。

答 資本費平準化債については、施設の減価償却期間は上限50年であるが、企業債の償還期間は40年である。そのずれにより発生する資本費不足を解消することを目的とした企業債である。令和7年度に資本費平準化債を使用した目的は、現在幸手市公共下水道事業において香日向地区の公共下水道の接続替えのため幹線整備を行っている最中であり、令和7年度以降はこうした整備に大きな事業費がかかることが予想されるためである。令和7年度の予算において資本的支出の建設改良費は

1億9874万4千円増の5億8347万3千円となっており、これらの財源を例年どおりに調達して工事を進めようとする、一般会計からの繰入金を増額せざるを得ない状況となる。このような一時的な財政出動が必要となる年度には、一般会計からの繰入金を増加させない手段として、今回、令和7年度予算では資本費平準化債を活用するものである。

令和7年度幸手市一般会計補正予算(第1号)
(議案第27号)

問 商工費のハッピーメール応援券について、内容を伺う。

答 第6弾のハッピーメール応援券発行事業を行う。1人当たり1500円(500円券を3枚)を配布する予定となっている。日程については7月下旬に発送し8月1日から10月31日までの3か月間を利用期間とする予定である。

